

Kodak  
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Blue 1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Cyan 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Green 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Yellow 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Red 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Magenta 12 13 14 15 17 18 19  
White 14 15 17 18 19  
3/Color 17 18 19  
Black 19

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

方  
199  
4

新  
累  
解  
脱  
物  
語  
四

13  
199  
4



拾  
199  
4

新累鮮脱物語 卷之四

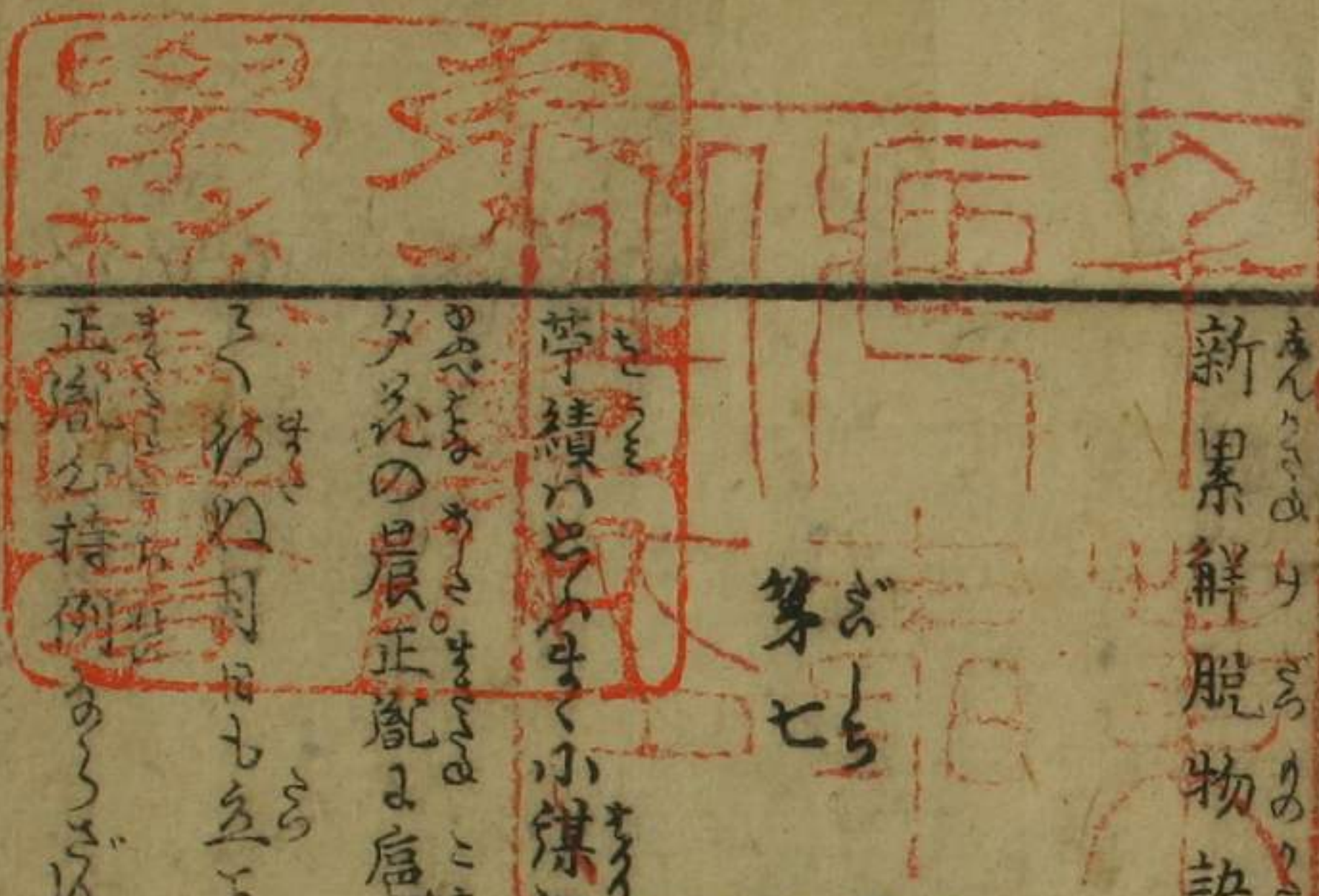
東都 曲亭馬琴纂脩

第七

正胤の便室小印幡靈を顕を  
法恩寺村小亭績仇を恋ふ

亭績はとほまき小煤深とく。西入金五郎を罪あひしう。ふらなる雲もあく。月の  
夕光の影正胤は扈從して。龍愛をたぬ小弥増しつ。さうらうらう夫人小異あらばく。  
るゆめ月夜も多とやとく。今茲もらまゝ。次の年秋の初風身小し。頂こらん。  
正胤の持例あうさび。程小針冬葉餅種々の医療等向あうせうのすう。小五郎

と狂くをこーおこらう。ふれは。一夜雨いと蕭然あるま。よは。宿の。  
け。亭績も。要時の暇ありて。ばう。寝も。宿も。  
思は。涙。又。明。月。朧。ら。して。枕。の。心。は。し。る。



首を撞熟視せし去年の秋捨りくもづる刺留う山...

正嵐岸破と反起て枕小立たる刀引よせをせ不忠の白紙...

幼くもあつりれらる。この印幡が亡天の迷ひ出ぬるあつり...

小文、概格るんどの妖さんとするよことあつりめ〜と罵...

切ると煙のどく消うせうり。さむこととくろのどとあつり...

印幡が姿の前よとを跳りり。切ると鐵拂ハバ迹ありくと...

藏野小ありとのある逃水の。そと一る死ま〜著漣ハ正嵐病...

かういを尻居小撲地とせし。忙然と〜在〜り。どのとれ印幡...

額づたつ。潜然と折返り〜とす。威目怒をよ〜り〜り...

つらとよ〜ら〜ら〜の愚るるより人小憐れわ〜り〜る...

まの〜れ〜小〜あ〜ど。脱が〜た因果の理を〜進〜ら〜せ...

東の石を助る〜ら〜ら〜の〜と〜の〜と〜。先君の以時小印幡が父山...

治部小野三と寛る悪報〜ら〜頃威を〜ら〜ら〜。原家臣の邪...

不忠と〜も〜察〜ら〜ぬ〜ら〜ら〜。天神これを許〜ら〜ら〜...

よ〜ら〜田糸姫難症。醜〜ら〜ら〜。刺親髪願事〜ら〜ら〜...

ま〜ら〜西入権〜ら〜。巫が毒とありあひぬ〜ら〜。忽比彼...

ありあひぬ〜ら〜。さ〜ら〜の〜れ〜。権〜ら〜。隱悪の亦是天神許〜ら〜...

愛の側室王芝と殺〜ら〜。どの身も隨〜ら〜。逐電を乃その餘...

係〜ら〜。彼亦予績は謀られて。どひもけぬ儒衣を被〜ら〜...

妬婦小相結して。殿の〜ら〜。父治部があり世の悪報上...

〜ら〜。さ〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜...

〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜...

〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜...

〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜...

〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜。〜ら〜...



山利

一くはもの美凡夫小待とてつぐやヌまのゆと権く及が隠慮等績が奸計  
 の書小夢えぬが。細中だらう夢あり血の涙を押しひきて亦とくま。倭文の辛  
 環録へても返らぬ昔のゆふらん。只疑つて連を等績と遠さけぬひらじとちの  
 らが殿の病苦。土地よ平愈あらん。且今より六年を待て某の月某の日  
 飯沼の弘経寺小待ぬらう。もうさるの法びあう。道高の聖傍よ逢ぬべ  
 その時野上三のうと。市播親子が鳥小待誦ぬらう。君思ぬか遺へ  
 ず。さるんぬのひらきぬらう。さや退してんてすくすくとし。鮮血胸臍より正胤の  
 胎動とてさうく振らうと并排んとすれぬらう。枕土圭の一声響愕然とて  
 髪を覚まらぬ。是楠柯の一夢も。時の丑の羊あり。正胤夢さうく彼此さえの  
 へる。太刀の抜けけへ前へのぬらう。ぐとさぼらう。袖うちりて亦因らう。小  
 白無垢俄頃小色ゆらぐ。血は染るがさうなる。疑はらう。しめぬ。霊夢さうら  
 鳴乎痛くさる。妙の杖に。又偏られぬ。ひを啼く。這奴が法の遺言とさう  
 とらう。金五郎をほらう。ちらう。官はひぬらう。越度る。遮莫今より権く承が  
 往方と冤索ら。縁故を正さやとおぼらう。ぐらう。勘ちつれらう。妙の再  
 ひらりあらう。ゆらう。さ。妙小待せん。亡父の恥あり。さ。あふれとあふらう。既  
 小金五郎を罪これら。まらう。憤を散らす足らう。さ。捨らる。等績が  
 られ不肖さう。さ。小惑ひらう。家名を汗さんと。これ過らう。これ過らうと  
 ひらり。夜の衾よ。比翼双飛。並る。枕小連理を契。さ。思地疎らう。ほえ  
 らう。明らさう。猛小老堂を。さ。これれ。彼おちらう。説き。癒らう。等績の  
 罪を責て。故郷へ追放。等績の密計既小發覺。陳む。言詰らう。さ  
 頭ぶ。擣らう。さ。さ。語朝。三入の走卒小送らう。下地  
 因心寺村小追らう。等績の彼処小到らう。故郷人よ。さ。影績さ。顔の

鳴乎痛くさる。妙の杖に。又偏られぬ。ひを啼く。這奴が法の遺言とさう  
 とらう。金五郎をほらう。ちらう。官はひぬらう。越度る。遮莫今より権く承が  
 往方と冤索ら。縁故を正さやとおぼらう。ぐらう。勘ちつれらう。妙の再  
 ひらりあらう。ゆらう。さ。妙小待せん。亡父の恥あり。さ。あふれとあふらう。既  
 小金五郎を罪これら。まらう。憤を散らす足らう。さ。捨らる。等績が  
 られ不肖さう。さ。小惑ひらう。家名を汗さんと。これ過らう。これ過らうと  
 ひらり。夜の衾よ。比翼双飛。並る。枕小連理を契。さ。思地疎らう。ほえ  
 らう。明らさう。猛小老堂を。さ。これれ。彼おちらう。説き。癒らう。等績の  
 罪を責て。故郷へ追放。等績の密計既小發覺。陳む。言詰らう。さ  
 頭ぶ。擣らう。さ。さ。語朝。三入の走卒小送らう。下地  
 因心寺村小追らう。等績の彼処小到らう。故郷人よ。さ。影績さ。顔の



らんとく。謙を腰巾。籠を背負て。家を去るといふ。さうして。家へ行く。さうして。
 忽ち法藏寺の辻を小くして。縁々相識をる。千葉家の走來。行の。
 ほど。身の窶々。小恥らひ。横さす。小避んとさる。彼。他。
 うはく。追ひ来さう。別後の女。否を。慰。同。さうして。是。人。の。う。の。果。
 敢。た。今。さ。う。致。さ。く。小。あ。り。ね。と。小。身。へ。さ。う。時。ら。ぬ。ひ。西。入。氏。の。家。子。
 小。在。久。後。の。諸。士。の。長。と。も。さ。り。ぬ。ら。ぬ。人。も。美。姿。と。も。ひ。つ。ふ。女。の。奸。
 計。小。漏。ら。れ。て。び。る。羽。生。小。さ。さ。さ。ひ。あ。ふ。縁。故。さ。ら。ち。り。ぬ。下。と。り。よ。右。馬。
 顔。ら。ち。頼。む。され。實。よ。の。故。を。さ。ら。む。ま。つ。同。だ。つ。の。く。ひ。の。め。り。
 ち。の。さ。う。へ。の。末。ひ。さ。る。と。あ。ほ。つ。さ。く。と。さ。う。さ。う。の。男。信。と。
 さ。い。の。さ。う。吾。儕。と。小。未。さ。る。の。亭。績。の。方。を。親。里。に。送。と。は。し。と。仰。を。
 稟。今。彼。如。う。さ。さ。り。ぬ。身。も。豫。々。情。一。あ。ら。ぬ。彼。如。婦。が。去。年。の。秋。山。

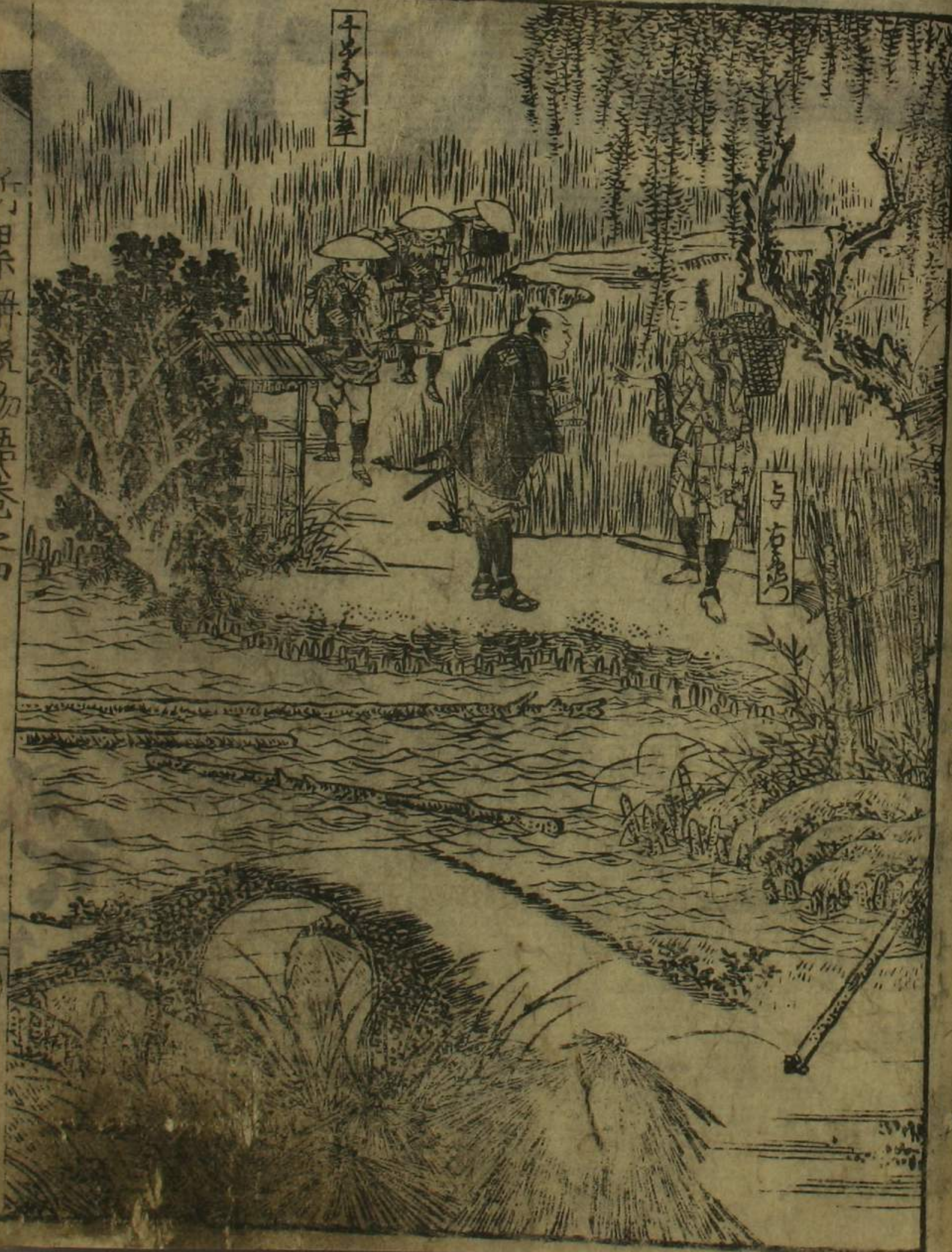
梨印幡を流る相語。さうして。其。皮。覺。て。殿。の。憤。と。さ。う。さ。う。ま。さ。さ。る。
 金銀珠玉。さうして。樓。造。り。さ。う。調。度。の。さ。う。衣。服。區。梳。小。さ。さ。る。身。小。著。
 さうして。許。され。ぬ。直。小。故。郷。に。追。へ。ぬ。ひ。さ。る。の。故。の。如。此。と。あり。と。く。
 首尾を説き。今。さ。う。の。さ。う。さ。う。の。恨。も。散。る。と。い。ふ。小。右。忠。と。
 い。わ。く。荒。余。と。さ。う。さ。う。の。實。の。罪。を。け。り。の。亭。績。が。所。行。さ。う。さ。
 情。さ。う。さ。う。の。印。幡。が。さ。う。の。地。に。た。る。さ。う。の。ひ。さ。る。小。さ。さ。る。長。く。
 尤。近。の。身。と。さ。う。の。ぬ。さ。う。の。ぬ。れ。さ。う。の。か。小。月。日。の。照。ら。ぬ。時。も。あり。と。く。
 過。さ。う。の。殿。の。知。る。さ。う。の。さ。う。の。小。行。さ。う。の。ひ。さ。る。小。畜。而。好。と。
 さ。う。の。も。告。め。ひ。さ。う。の。と。致。さ。く。と。い。ふ。と。彼。田。の。苦。さ。う。の。
 眉。根。を。さ。う。の。頭。を。搔。け。さ。う。の。さ。う。の。定。中。人。の。ひ。さ。る。
 小。む。り。権。一。壘。ぬ。り。箇。様。の。較。計。さ。う。の。田。系。娘。を。追。う。と。い。ふ。

近曾路頭ちかぞう ちうぜんもも。既なほも影かげの年月ととねをを歴へるよ。縦たてもも親おやとと。  
一いののも。田た系けい姫ひめのの帰かへるのよもののよも。世よ小こののよも古ふる殿とののの心こころ。  
一いのの。世よのの制せい度どもも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
鳥とりのの頭かぶのの白しろくくもも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
んんのの耕かき耘つののつつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
世よののつつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
らら。又また一いつつままねねどどのの父ちちのの昔むかし惡わるいいふふ。つつままねねどど。  
ここらら。つつままねねどどのの田た系けい姫ひめのの往ゆき方かたもも。つつままねねどど。  
つつままねねどど。故ゆゑもも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
つつままねねどど。父ちちのの系けい姫ひめとと。声こゑ叫なをひひ忽たち沈しん母ぼをを破やぶ殺ころすす。刺さすすのの刃やいば逐お電とん走はしひひ。をを。  
つつままねねどど。故ゆゑもも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。

この煩悩ぼんがうををもも。父ちちののもも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
ああつつままねねどどとと物ものののああつつままねねどどとと。私わたしののああつつままねねどどとと。  
帰かへるの累かさねのの曲まが突つ燒やけけ。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
法ほふ恩おん寺てら村むらよりより使つかへへ。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
小こののああつつままねねどど。日ひ未みのの疎そくく打うちちののああつつままねねどどとと。稀まれなるのああつつままねねどどとと。  
ああつつままねねどど。幸さいふふ。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
ああつつままねねどど。折せりをを。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
由ゆ縁ゆかりゆゆ。清せい三さん昂かう。親おやとと交まじららむも。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
ああつつままねねどど。折せりをを。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
ああつつままねねどど。彼か知ち小こ到たう。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。  
ああつつままねねどど。清せい三さん昂かう許ゆる疎そくく。つつままねねどど。つつままねねどど。つつままねねどど。

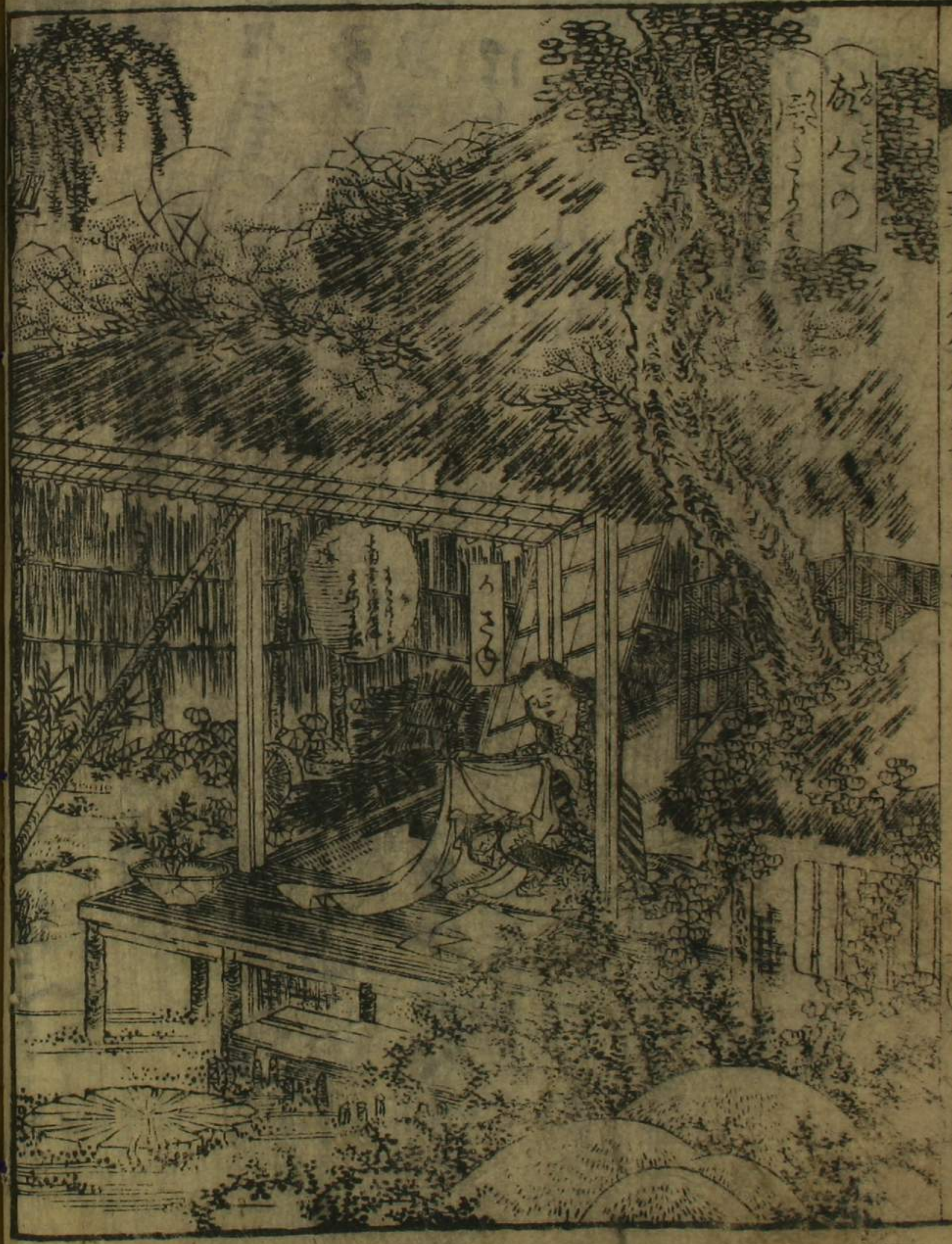


新見解説物語卷之四



千代丸

与右



新見解説物語卷之四

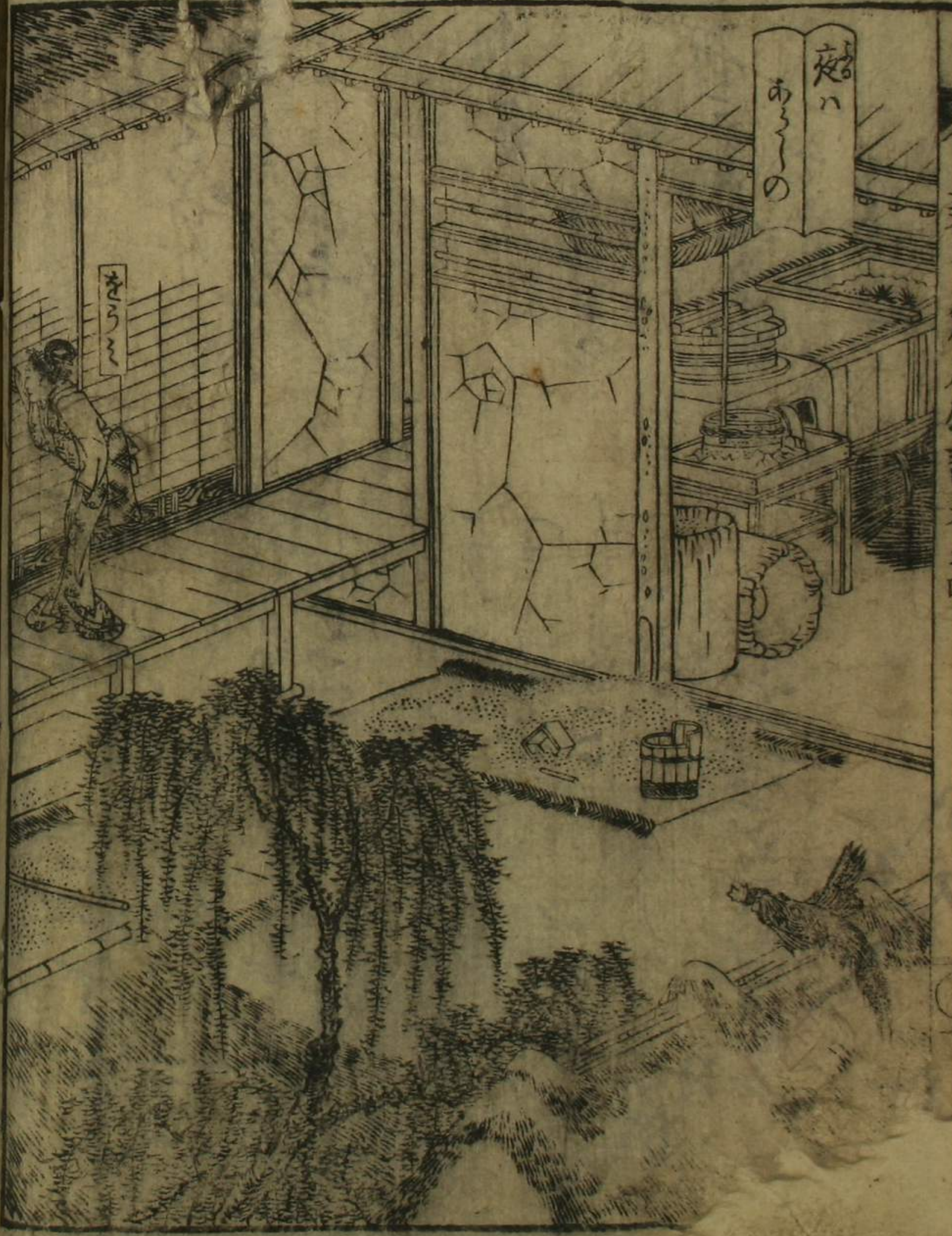
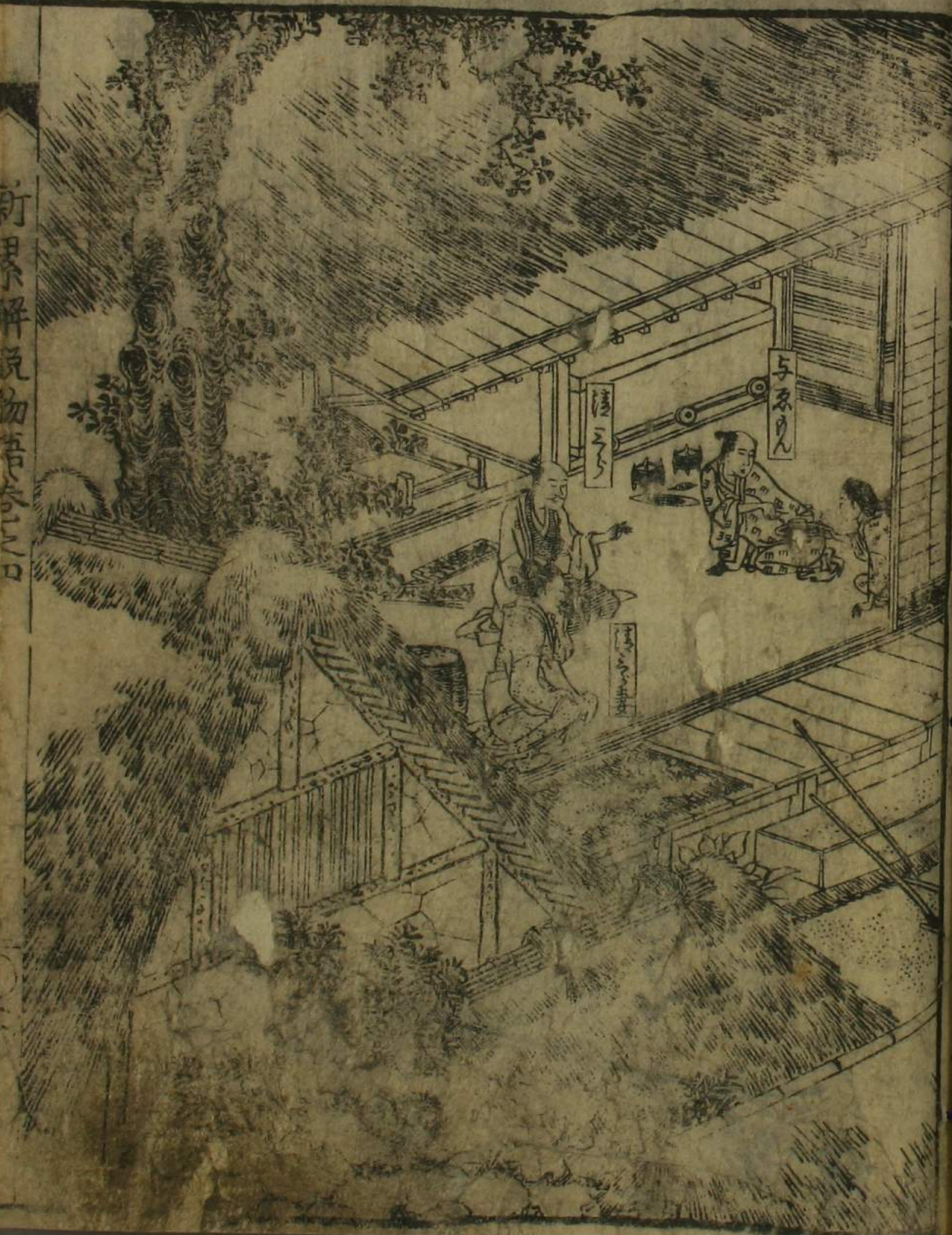
新見解説物語



醫藥残るるるく勲をど。さそくその験るく。日小く。あひほそ。さそく  
 中 思病るるるく。有。一。夕。草。績。が。母。枕。方。ち。く。ま。は。低。く。し。行。つ  
 の物。致。ど。の。さ。る。う。の。ま。る。れ。ど。以。身。が。元。の。の。り。か。と。な。さ。し。り。名。濱。の。川。錦。下  
 あり。と。た。着。恋。一。人。の。あ。る。あ。の。あ。ら。む。や。千。の。宝。貨。も。た。え。ど。と。あ。か。ひ。ら。う  
 子の。み。や。い。れ。が。多。も。いと。憂。ど。お。ほ。さ。る。母。の。匿。あ。の。ま。だ。備。を。す。れ。は  
 る。ち。づ。づ。を。さ。ま。あ。く。け。え。ぬ。命。小。う。あ。る。る。や。あ。る。や。よ。と。同。る。小。草。績。の。の  
 く。そ。ま。い。り。ん。と。く。と。ふ。か。く。小。い。ひ。ら。ぬ。る。を。同。と。る。は。さ。さ。く。る。小。黙。止。と。く。  
 い。ぬ。る。日。子。右。巻。つ。を。胸。穴。規。て。し。う。う。の。持。惑。心。顔。小。ら。ひ。と。焦。一。あ。が。る。彼。人。の。の  
 妻。あ。り。く。が。才。故。小。左。辻。あ。の。結。が。縁。一。小。由。あ。れ。を。か。く。う。ち。敷。く。小。く。  
 侍。り。が。一。父。母。の。慈。り。く。彼。人。の。妾。と。も。あ。り。ぬ。ら。枯。る。枝。小。花。を。用。し。  
 碎。る。玉。の。圓。よ。あ。る。か。と。ん。ん。い。う。る。る。過。世。の。因果。よ。え。ん。さ。る。ち。ど。わ。り。り

憎。く。う。り。より。倍。る。倍。る。恋。草。の。袖。小。雨。路。あ。く。身。の。真。愛。を。あ。れ。と。も。か。し  
 ば。よ。死。小。も。う。う。て。あ。せ。と。の。ひ。う。け。く。伏。沈。わ。の。母。の。只。果。小。果。れ。く。顔。さ。し  
 歌。の。唇。さ。り。一。が。寔。小。恋。の。思。案。の。外。と。り。の。道。理。を。り。く。説。く。と  
 と。ひ。と。一。く。輒。く。う。け。引。さ。る。あ。り。ち。し。それ。と。も。か。く。も。計。あ。べ。し。あ。く。と。あ  
 ひ。屈。り。く。歎。れ。を。さ。る。ま。さ。さ。め。ひ。そ。と。さ。ま。づ。小。い。ひ。ら。ら。と。と。夫。情。二。高  
 小。草。績。が。し。つ。る。も。ど。物。づ。う。の。い。ら。う。ま。く。よ。う。一。と。ん。と。の。め。小。情。三。高。も  
 ち。ひ。う。け。の。い。ら。う。あ。れ。ど。も。小。果。て。の。呀。を。あ。ら。う。ま。だ。ま。り。れ。ど。も。愛。の。溺  
 る。い。へ。の。親。の。常。あ。れ。が。い。ら。小。り。と。女。児。の。聲。を。稱。ほ。さ。せ。す。ほ。く。く。ら。ひ  
 長。ず。あ。る。火。笠。者。り。く。爐。の。灰。を。う。た。る。じ。つ。の。い。や。う。果。然。の。事  
 る。け。い。る。ま。さ。が。草。績。を。よ。右。巻。つ。が。備。妻。と。と。ん。と。い。ふ。と。も。推。辞。と。い  
 ち。う。れ。と。も。ま。が。女。児。の。物。妬。を。小。よ。う。く。無。實。の。罪。を。は。く。う。と。あ。ら。う

新界解説物語二口



新界解説物語二口

おつとえさくちけり。む村あるゆ平の彼小親  
ゆ平の振平は招きたくひとす小談合。序よくこの人を媒妁とす。要  
整の。まじり成就見んものとおぼつとあり。とりぬ妻も頭を頷け  
常言の。淡のれが本體も面を紅くとり。まのてやゆ平の貢米の未進  
あり。利なきく彼を誘ひあり。輒く諾ひ行くべし。まじり招きたく談合  
まのりとのふ。清三郎黙頭。その夜ゆ平をひびよと。兩室小招た  
ふ。縁故を物ごとくと。まじり。男の思慮あり。まじり小大  
成明をのふあり。慍小く繕ふ。成まじり深念。芋績が物妬  
小く。子右衛門を罪する。且そのゆ發覺。正胤の寵愛。此度  
身の暇をありし。亦わゆる。日幸績が子右衛門を着恋。まじりは  
る。まじり。も残さず告さる。も。親の友ありとはまじり。

何が何となく彼が肚裏を探さく。異事小芋績は謀られし。まじりやまじり  
さる。まじり。その氣をえ定めあり。彼らよくまじり。まじり干し  
女児が願ふ。究く稱易。まじり。のゆ。去年より貢米の未進  
これ償く進らむ。まじり。まじり。の由を。まじり。漏れあり。まじり  
ゆ平は。まじり。まじり。まじり。村長の町。小頼。まじり。まじり  
まじり。推辞とせよ。ゆけあり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり  
まじり。破る。端の縦子右衛門。仇く。まじり。まじり。まじり。まじり  
醜婦あり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり  
口舌。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり  
まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり  
まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり  
まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり

はつと... 稱... 小物... 保養... 後影...

第八

城隍廟... 紹川堤...

清三郎夫婦... 傀儡俳優...

さ... 村城隍神... 氏子の... 秋... 試樂... 被... 今...



小逢ともめんうとかり小よふがうあつれが。母も同じく緋掛をよび  
う。卓衣の條模様へさう。縫刺のうへまむもよく意をゆくと。又葉ま  
婆こ小物とくく。牙曲波びひつらう本日を行きうりら。さう経小御人の  
城隍神祭の誄鼓我會今茲より再興ととけく。然と限てあうら  
女児うさるの。外の村ある。姪あど傭ひまう。まけし魂の親こら。おひ  
ありひの準備り。経小緋掛の藍壺小隙あり。箔屋縫屋が舗られが小  
賑つう。こふ子ち歩つが妻の累へ針さる巧小勝をされば。びらるるあくと。縫屋  
が針小かつらとら。彼を傭めと常ある小。まうく日敷を限する誄鼓戲  
衣裳と傭ぐら。請負うら。縫屋の男。段物賸者負来て累う  
のやう。これのは恩寺の誄鼓戲衣裳をれば十日の夕られまう。小逢とく  
りん。事違ひとのひとら。員敷めためく受うら。ぬと。袂の端解

披たつとら。出せとさる。びれもさる。深きまう。けとら流行  
とかぼく。菊花の裾模様。樵斧と琴と傭まらる。よらとさくとい  
ふとらるるべし。或の細輪よねの字の紋つけ。草刈鎌を添さる。うらねと  
の意や。或の合の字四ツをうら。まの。草の紫小をの。括弧はまう。四合  
せよと。の。又謎くうら。鹿小紅葉小田。雁栲槌川。萱草島光  
紫あり縹緋ありて。おとら。勝ららる。中。一際異なる。小  
不動尊の横。小這あが。瓢の核小等。白板。小  
眼。の。掲。火炎燃出らる。小  
靴。と。何と。謎。や。物敷奇。何  
の。單衣。と。縫。これ。法恩寺の村長  
情。三。女。草。美。の。深。を。除。直

新編月言集



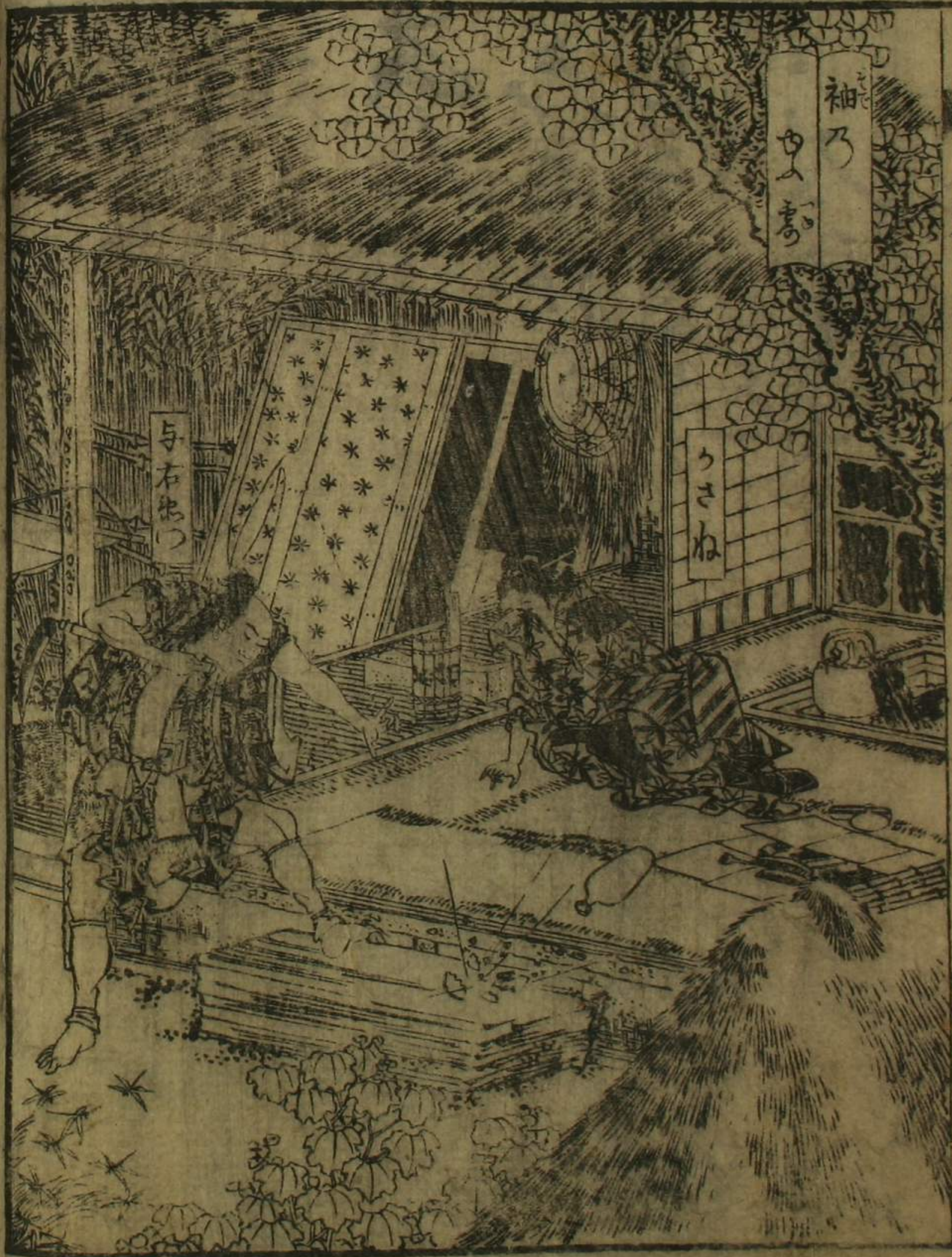
縫うて来てとびあらしみひらりと。紳様よりうかう通うて。  
 世よつてまぎくの物敷奇めありのよのよ。累がよとていつい  
 小こもつて身元来親族るもせんでんとあつて人づともう  
 こもあつてとありのこを縫うて縫うてあつてださう  
 あつてとどつれんも影獲しものい方が方々、縫あつての  
 こもあつてとありのこを縫うて縫うてあつてとて身幅被  
 縫うてと進まへと應えよふ。縫うてとてわつて身幅被  
 袖あつて。冊子を残りとも草績が衣裳の舊のどく。被小  
 ぬかをよちあつての門方よありて。産采伐とあつて耳を側  
 くれのりつ日。情三昂許りたる草績を怒らんかたれど。彼  
 終よあつて。その家より奴婢殿のどく。縦名吉ありとて本  
 つらあつてありのりつ。あつていびつて過る小。幸あり  
 十一日。宵宮あり。彼も

誣鼓戲の隊ありて。衣服の模様小つてまぎく。今紳  
 まつてぬられ彼女奴怒つてまぎも。給あつてまぎ不動の  
 果つて。後々悟りてあつて。とてまぎ小ぢい定め。十日を  
 りもあつて小ぢい。累がけとて夜をさつて。鞍の単衣を縫  
 せつて。その黄昏より。誣鼓戲又小ぢいあつてとありひく。髪  
 る小ぢい山の扱小入りりぬ。さつて小ぢいとてあつて。日  
 あつてとて妻もあつてとて。利鏢の寝女ありとて。磁ふが  
 竹とてあつて。夫のいさか故ありげふとてあつて。累が物  
 ともあつてとて右あつて。軒小影とて月よりも。あつては  
 引提と外の方へ走り去るとも。知を累がつとあつて。遠く  
 怪れた気もあつて。いびつて行あつてとて。あつては  
 針掛が物づく

針掛は物づく



新田原野の稲刈り



袖乃  
白く

与右の

うさね





(心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。
 (心恙)ふへい。恩義のニツを全せん。まじりて。あつらひ。きりぎり。しりしり。と。清三郎が。家。来。到。
 喘。法。思。寺。村。小。走。り。ゆ。か。ら。も。め。の。い。ぬ。か。り。ち。と。清三郎が。家。来。到。

同。清三郎が。妻。聲。を。き。こ。う。る。被。包。を。打。ひ。た。れ。ん。ぬ。こ。ま。の。う。ろ。の。這。き。
 葡萄。の。葉。反。白。く。漆。よ。と。書。つ。け。く。遍。子。の。を。海。邊。か。あ。ら。う。讀。く。
 板。歯。白。死。不。動。尊。の。よ。か。ひ。ぬ。の。牙。を。漆。く。縦。糸。衣。裳。あ。り。と。も。ま。た。ま。
 の。被。ひ。た。の。ら。幸。續。が。う。ら。腹。を。う。ら。へ。て。あ。ぐ。と。ら。ふ。も。理。小。め。い。ま。と。ら。い。
 累。の。よ。は。よ。回。答。し。て。退。出。し。と。ま。る。と。清三郎。妻。又。い。か。や。う。世。の。人。の。評。
 戲。戯。ふ。新。の。浴。衣。一。つ。被。さ。う。と。同。く。小。の。身。の。と。秋。も。羊。あ。り。ふ。
 ほ。か。と。ら。る。麻。衣。の。裾。に。垂。たる。を。被。く。在。と。る。よ。の。評。戲。戯。衣。裳。の。う。か。
 ち。よ。用。る。ゆ。の。の。る。り。摸。様。が。さ。う。な。れ。ど。被。さ。行。ぬ。と。し。て。し。て。し。て。し。て。
 累。の。押。し。ひ。た。う。と。を。清三郎。妻。又。い。か。や。う。世。の。人。の。評。
 戲。戯。ふ。新。の。浴。衣。一。つ。被。さ。う。と。同。く。小。の。身。の。と。秋。も。羊。あ。り。ふ。
 ほ。か。と。ら。る。麻。衣。の。裾。に。垂。たる。を。被。く。在。と。る。よ。の。評。戲。戯。衣。裳。の。う。か。
 ち。よ。用。る。ゆ。の。の。る。り。摸。様。が。さ。う。な。れ。ど。被。さ。行。ぬ。と。し。て。し。て。し。て。し。て。
 累。の。押。し。ひ。た。う。と。を。清三郎。妻。又。い。か。や。う。世。の。人。の。評。
 戲。戯。ふ。新。の。浴。衣。一。つ。被。さ。う。と。同。く。小。の。身。の。と。秋。も。羊。あ。り。ふ。
 ほ。か。と。ら。る。麻。衣。の。裾。に。垂。たる。を。被。く。在。と。る。よ。の。評。戲。戯。衣。裳。の。う。か。
 ち。よ。用。る。ゆ。の。の。る。り。摸。様。が。さ。う。な。れ。ど。被。さ。行。ぬ。と。し。て。し。て。し。て。し。て。



江戸の御祭



新見月言

社頭の  
花あがり

与右虎門







新日本異物五巻之四



四〇

新日本異物五巻之四

利根の  
水の窟

与右左



四一





